

1. 実況上の着目点

① 台風第10号は、1日12時に熱帯低気圧に変わり、東海道沖をゆっくり北上。熱帯低気圧周辺の雨雲や日本のはるか東に中心を持つ太平洋高気圧の縁辺を回る下層暖湿気が流入し、西～東日本の太平洋側では、大気の状態が非常に不安定となっており、局地的に1時間10～20mm程度の雨量を解析し、雷を多数検知。これまでの大雨で、西～東日本の太平洋側を中心に地盤の緩んでいる所があり、土砂災害の危険度が高まっている所がある。また、1日7時の72時間積算解析雨量では、神奈川県で900mm以上、静岡県伊豆半島で700mm以上の記録的な大雨となっている所がある。

② オホーツク海には500hPa -12℃以下の寒気を伴った寒冷渦があって、対応する直下の低気圧が北上。この低気圧から前線が日本の東～北日本にのびる。前線に向かって①の下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となっている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の熱帯低気圧は、北上し2日朝までには衰弱する。また、2日朝には別の低気圧が日本海に発生し、北東進しながら2日夜には1項②の前線と一体化する。熱帯低気圧周辺や1項①の高気圧縁辺を回って流入する下層暖湿気の影響で、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。また、熱帯低気圧周辺では、強い風が吹いて、海上はうねりを伴った波が高くなる所がある。東日本では2日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒。西日本では2日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒。西～東日本では2日にかけて、強風や高波、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。

② 2項①の前線は、2項①の低気圧と一体化しながら2日夜にかけて本州付近にのびて南下する。この低気圧や前線に向かって下層暖湿気が流入し、北日本では大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。また、低気圧周辺や前線近傍では、気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹いて、波が高くなる所がある。北日本では3日はじめにかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、強風や高波、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。

③ 3日は日本海に中心を持つ高気圧に日本付近は次第に覆われる。東日本では滞留する下層暖湿気と日射による昇温で大気の状態が不安定となる。東日本では3日は、落雷や突風、急な強い雨に注意。

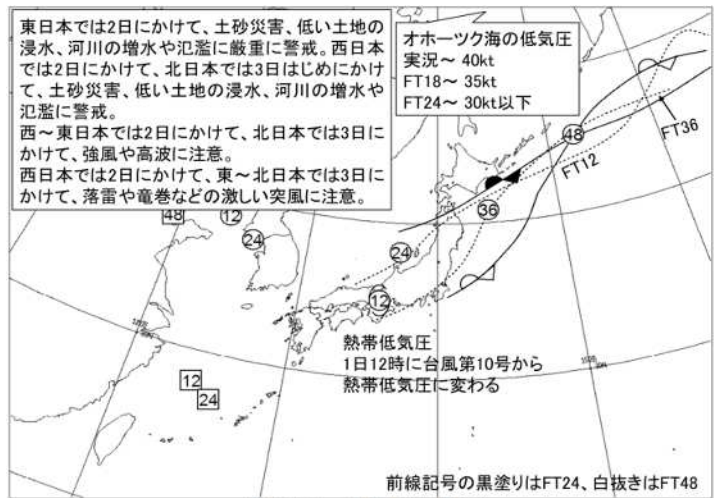
3. 数値予報資料解釈上の留意点

4. 防災関連事項 [量的予報等]

①雨量(18時からの24時間):東海150、東北・近畿、関東甲信120mm。
②波浪(明日まで):北海道・東北・関東・東海・近畿3m。③高潮(明日まで):大潮の時期。西日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

「台風第10号に関する情報(総合情報)」「終了情報」を15時過ぎに発表。「大雨と雷及び突風に関する全般気象情報」を17時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図